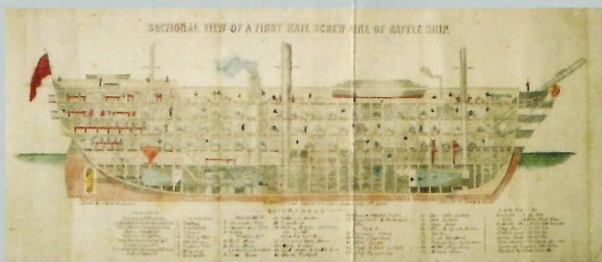




佐藤政義(遊佐出身・勝海舟塾々頭)



第一級螺旋推進式戦艦切断図(アルフレッド・ダブリュー・モーランド絵)
1854年・イギリス・ロンドン—ジェームス・レイノールド発行



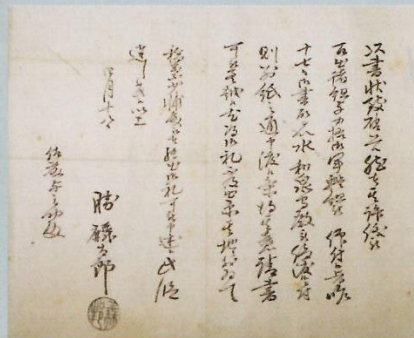
長崎丸二番の幕府軍艦旗



帝国海軍軍艦旗



本間郡兵衛(酒田出身・海軍伝習所通弁)



御軍艦乗込申渡状
並勝海舟添書



携帯用地球儀(ドイツ製)
本間郡兵衛所持



戦艦 大和



とびしま

巡視船とね



2002

【第119回 企画展示】

— 模型で見る —

船の歴史展



フリースラント(オランダ)

- 開催期日 / 平成14年2月21日(木)~4月21日(日)
- 開館時間 / 午前9時~午後4時30分
- 休館日 / 3月末まで月曜日、4月以降は無休
- 入館料 / 大人100円、児童・生徒50円

65歳以上の方と身体障害者の方は無料です

酒田市立資料館

酒田市一番町8-16 TEL(0234)24-6544
FAX(0234)24-6544



サンタマリア



御朱印船



独木舟(藤島町)
(山形県指定文化財)



島船(酒田・飛鳥)

開催にあたって

人類が用いた最初的水上輸送手段はおそらく「いかだ」だったでしょう。

その後、1本の木をくり抜いた丸木舟が使われるようになり、日本でも縄文時代の頃と思われる丸木舟が出土しており、各地で利用されていたものと思われます。

また、交易が拡大するにつれて大海を航海することも盛んになり、船はますます進歩していきました。

特に、15世紀後半になると、天文学、地理学の発達、帆船と羅針盤の改良などにより、新しい航路が開かれ、大航海時代を迎えました。

ヨーロッパ諸国は新たな布教地、貿易の利を求めて世界の海へ乗り出していったのです。

1543年にはポルトガル船が種子島に漂着し、日本との交易も行われるようになり、日本の造船技術や文化向上にも大きな影響を与えました。

今回の企画展では大航海時代に活躍した帆船を中心として取り上げ、その模型を展示しております。

当時の船は、より速く、より強く、より美しくを求め、また、長い航海に耐えられるよう、最新の技術を駆使し、国の威信をかけて造られたものです。

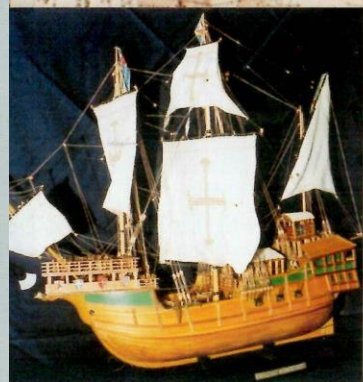
今回の企画展の開催にあたり、模型を提供して下さった加藤安太郎氏、木村武士氏、鈴木喜一氏をはじめ多くの方々のご協力に感謝申し上げます。



ノルヌケレーベ



万福丸(紅花船)



カラカ・アトランチカ



ラクロン



ロワイヤル・ルイ



千石船



ビクトリー



ビクトリー



サバニ(沖縄)



カティサーク